

「こども・家族が主体となる在宅ケア支援モデルの開発」Part 1

小児領域における在宅医療 ～病院から地域への連携～

こどもが病院へ入院し地域にもどる時、いろいろな状況があります。特に、医療行為を受けながら在宅療養するということはこどもにとっても家族にとっても不安はつきものです。今年度の診療報酬の改定で在宅医療に大きく目を向けられ、国の政策にとっても大きな課題となっています。

茨城県の中で、小児領域における在宅医療の現状を学び、私たちができることを一緒に考える機会としたいと思います。

開催日時

2014年6月5日(木)17:30～19:00

開催場所

けやきプラザ(けやき棟1階)

参加費:無料(事前参加申し込み不要)

「こども・家族が主体となる在宅ケア支援モデルの開発」における概要の説明

筑波大学附属病院看護部 小児看護専門看護師 田村恵美

「茨城県における小児在宅医療の現状」

筑波大学附属病院小児内科 榎園 崇

「在宅へ移行すること」

筑波大学附属病院リハビリテーション部 石川公久

「在宅医療への挑戦」

筑波大学附属病院看護部長兼副病院長 白川洋子

レジデントレクチャー 1単位となります。

ぜひ、みなさまご参加ください！

問い合わせ先:代表者 田村恵美(PHS:90042)

事務局 酒井勇樹(PHS:90325)

「こども・家族が主体となる在宅ケア支援モデルの開発」

Part1

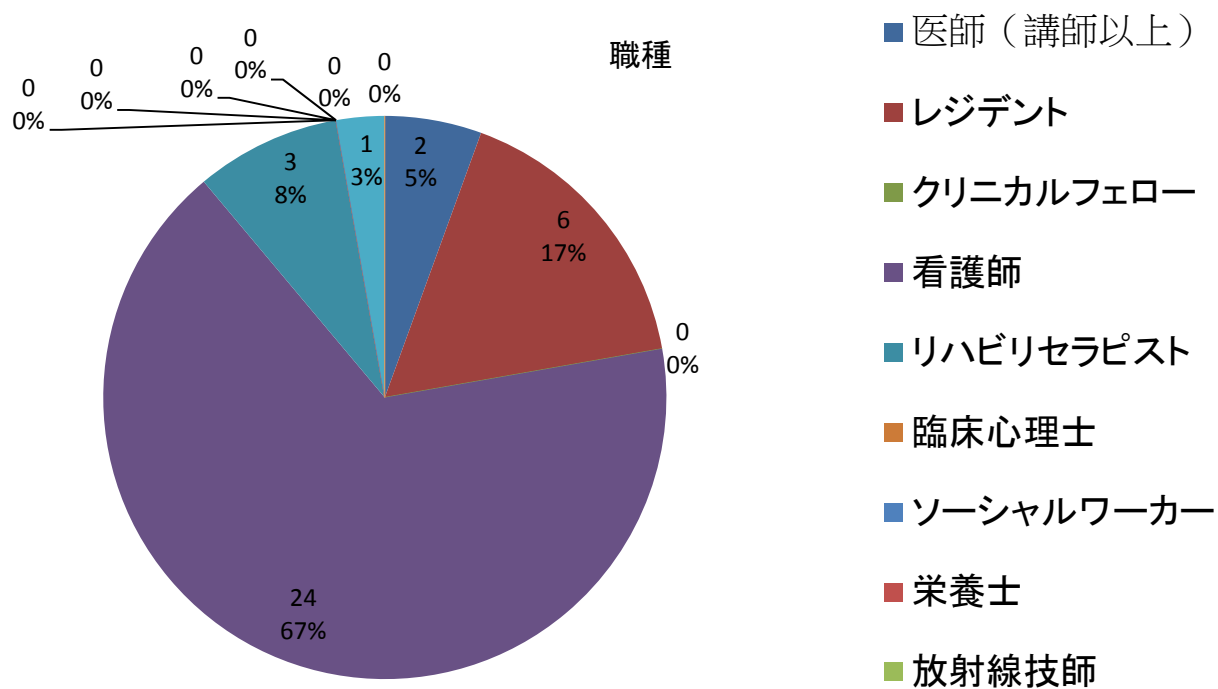
小児領域における在宅医療 ～病院から地域への連携～

開催日時：2014年6月5日（木）17:30～19:00

開催場所：けやきプラザ（けやき棟1階）

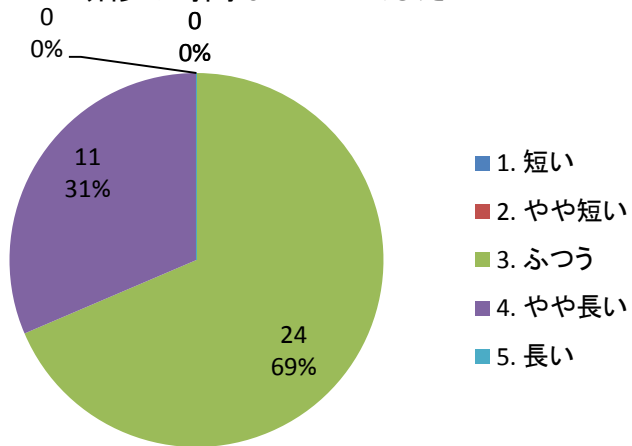
参加者数：56名 アンケート提出者数：36名

参加者について

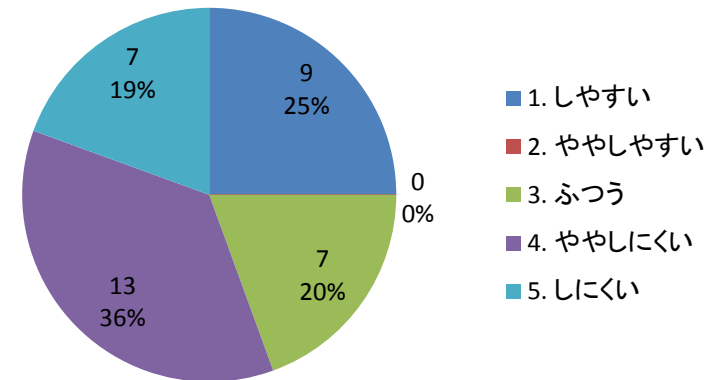


研修について

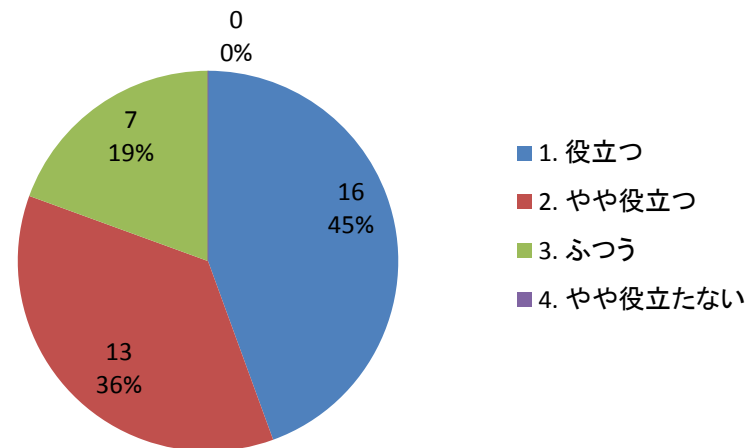
研修の時間はいかがでしたか？



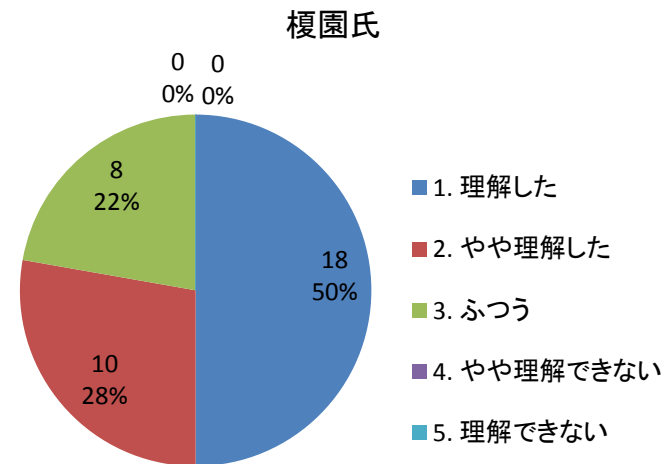
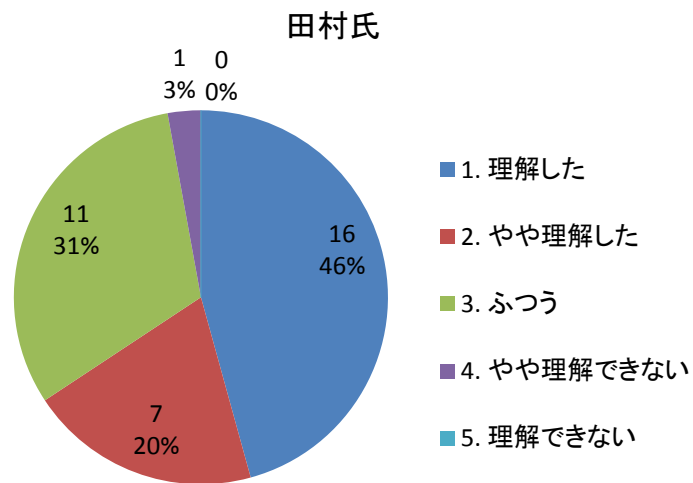
画像・音声等の視聴はしやすかったですか？



内容はあなたの今後の業務に役立つものでしたか？

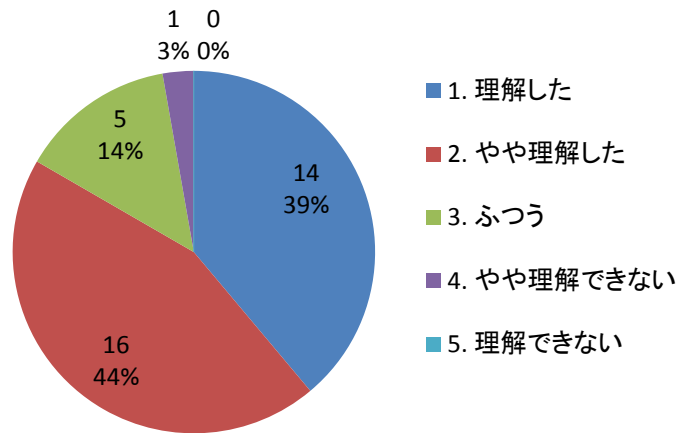


各講義について(1)

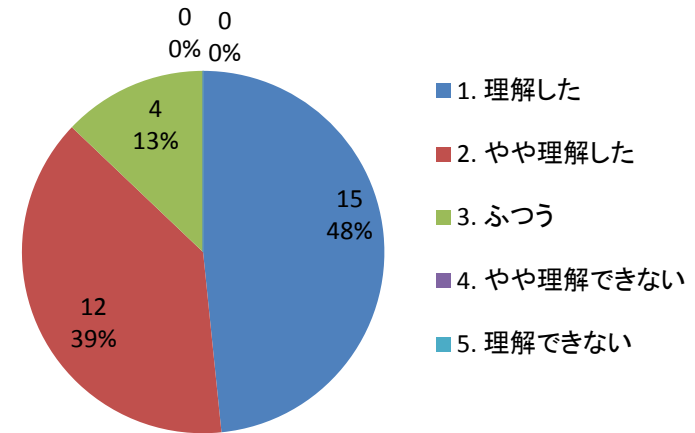


各講義について(2)

石川氏



白川氏



意見・感想(1)

- とても興味深く聞かせていただきました。ありがとうございます。
- 石川先生の話が非常によかったです。在宅リハと今後の医療制度の理解ができました。
- 個人的にも、小児の長期入院に興味があり、勉強をしているのでとてもおもしろかったです。
- 多職種の人達が一つの目標に向かって活動していることにうれしく思い、少しでも協力できればと思った。
- とてもよかったです。石川さんのスライドがなくて残念だった。

意見・感想(2)

- 病院で働いていると、なかなか気付けないことを改めて考えることができました。
- 茨城県南での小児在宅医療の現状は理解できたつもり。医師免許をもっている以上、協力できることはしたい。数ヵ月単位で異動となるレジデントの身では何もできないかというのが現状です。来るべきいつかの為に勉強していきます。
- リハビリの石川先生のお話をもう少しわしくきいてみたいです。

筑波大学附属病院における、小児領域での 在宅医療・地域連携・移行支援の課題(1)

- 大学で高度医療を受け、その後遺症...？治療の副作用等によって在宅医療になった子供達についても、その後のケア等の課題があると思う。
- 地域にかかりつけ医をつくる過程で、原疾患が重症である程、家族の大学病院とのダブル主治医への移行が困難に感じることもある。
- 考えていた以上に、連携していくには大きな壁があるのだなと感じた。
- 家族へ指導する機会を設けるのはどうか。同じケアを必要とする家族を集めて。
- 各病棟で取り組まれている、使用しているパンフレット、指導チェック方法などの情報をオープンにしてほしい。

筑波大学附属病院における、小児領域での 在宅医療・地域連携・移行支援の課題(2)

- 重症の患児が多く、家族の負担が多い状況が現状と考えます。
- 若手スタッフが多く、入れかえが多いこと。指導できるほどの経験を持つ人が果たしているのか、またそういう人を入院の一步先の方に出してしまうと院内が不十分になる気がする。どの病棟にいても人手不足、忙しいとのことで、入院のPtに対してのケアや退院調整にも関心を持つ余裕がないようすなのに、さらにその先へと手を広げることで、臨床の現場はもっとうすくなるのではと心配。まず臨床現場の充実を得ないと、人が足りなさすぎると思います。
- 病棟からはなれたあとのことがよくわからない。病棟Nsとしてもっとすべきこと、できることを明確化すること。

今後、研修会等で希望するテーマ

- グリーフケア。在宅物品管理料。
- 介護する家族の負担への対応。仕事をやめたり、同胞がいる時の同胞へのサポートの制度？とかはあるんでしょうか？
- 実際の症例の事例検討等がしてみたいです。

「こども・家族が主体となる在宅ケア支援モデルの開発」
小児領域における在宅管理料
在宅におけるこどもの呼吸ケア
～こどもと家族の生活を支える技Part2・3～

こどもが病院へ入院し地域にもどる時、特に、医療行為を持ちながら在宅療養
するということは、こどもにとっても家族にとっても大きな不安を伴います。今年度
の診療報酬改定でも、在宅医療が国の政策として大きな課題となっています。
小児領域における在宅医療の現状を学び、ともにスキルアップしましょう。

**講義1 「小児領域における在宅管理料
と在宅医療に関する診療報酬」**
講師：(株)ニチイ学館医療技能専門職 永田弘美 氏

**講義2 「在宅におけるこどもの呼吸ケアと
排痰ケア」**
講師：筑波大学附属病院小児科 榎園崇先生

開催日時：
2014年7月25日(金)17:30～19:00

開催場所：けやきプラザ(筑波大学附属病院けやき棟1階)

参加費：無料(事前参加申し込み不要)



問い合わせ先：代表者 田村恵美(PHS:90042)

事務局 酒井(PHS:90325)

「こども・家族が主体となる在宅ケア支援モデルの開発」

Part2・3

小児領域における在宅管理料 在宅におけるこどもの呼吸ケア

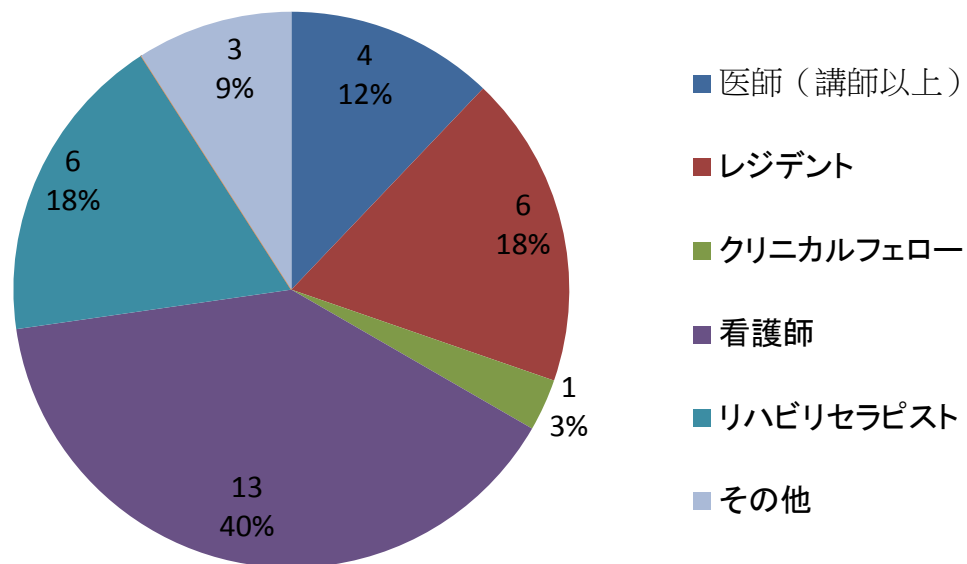
開催日時：2014年7月25日（金）17:30～19:00

開催場所：けやきプラザ（けやき棟1階）

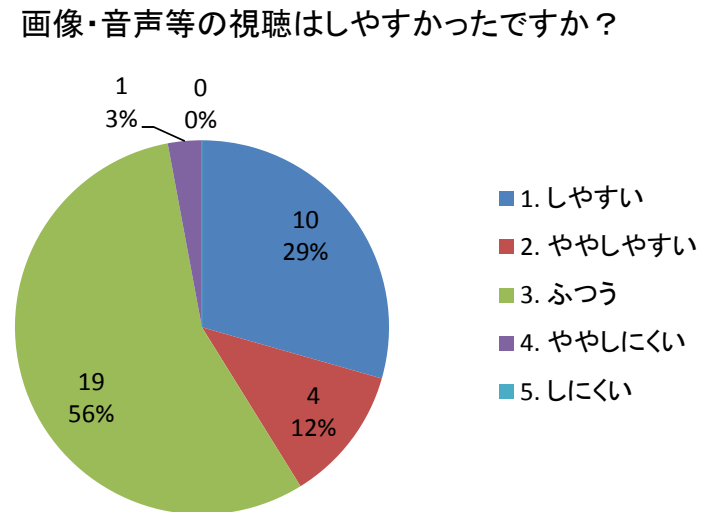
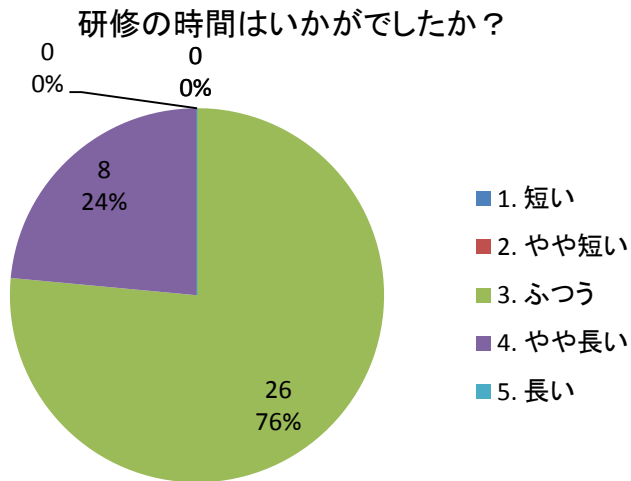
参加者数：68名 アンケート提出者数：34名

参加者について

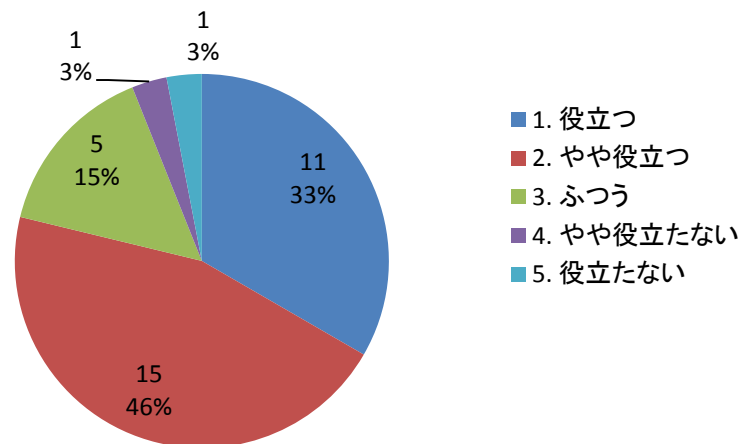
職種



研修について

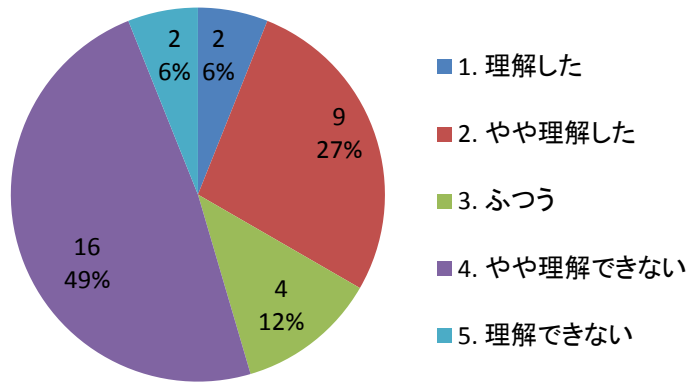


内容はあなたの今後の業務に役立つものでしたか？

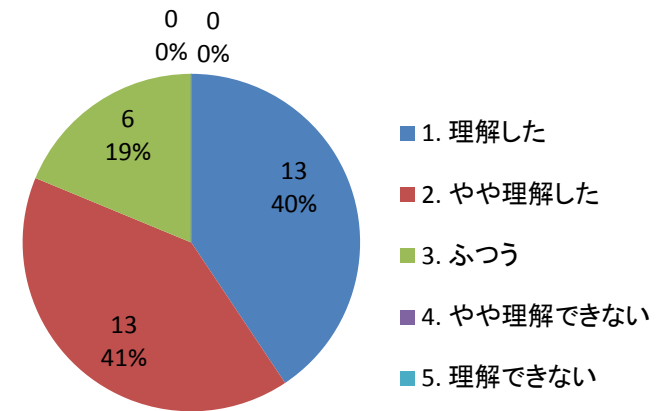


各講義について

永田氏



榎園氏



意見・感想(1)

- 保険点数・算定に関しては無知な事が多く、私にとっては新しい知見が多かった。
- 有意義だった。加算など、もっと知らないとならないことが沢山あると知りました。
- 実際の呼吸ケアの方法(実技)＝手を使ったものを期待していたので、少し残念でした。
- 大変実用的な内容で勉強になりました。知りたかったことをたくさん教えてもらえました。
- 後半は内容がおもしろかった。

意見・感想(2)

- こどもの在宅ケアの流れや注意点などが、もっと詳しく知りたかった(例など)。生徒に身近な機器について知識を得られたので良かった。(今回紹介のあったカフアシスト等は今後導入されるものなのか、等、簡単な今の病院の状況なども知れると良かった)
- 実際の機械を体験できてよかった。
- とても良く計画されていた。「職種ごとにポイントが変わるので」その点の工夫が必要。

筑波大学附属病院における、小児領域での 在宅医療・地域連携・移行支援の課題(1)

- 患者への医療が優先するが、きちんと実施していることは、加算・算定がもれないようにすべきであると考えられているのではないかと思う。まったく今回の研修と関係ないことだが小児領域で在宅医療の算定ものがあるのかないのかしつかりみなおして、あるようなら、院内他の診療グループに働きかけて研修会をひらき病院全体で改善すべきと思う。
- 成長障害、発達障害のスクリーニング、予後、IC

筑波大学附属病院における、小児領域での 在宅医療・地域連携・移行支援の課題(2)

- ENT後のレスパイトがない。自宅への往診があると、自宅での様子を知ってもらいやすいと思う。出される物品が少ない。
- 福祉施設と連携し、呼吸器等を利用した患者さんが過ごせる場を増やしてほしい。
- 多職種カンファが大切。
- 小児ではご家族の協力が必要不可欠であり、とても大変だと思います。「一緒に生きる」ことの支援が行えるように沢山のことを整備していく必要があると思います。行政とも協力していけるといいですね。

今後、研修会等で希望するテーマ

- 在宅での感染管理。
- 在宅でみられている御家族の話が聞ければ今後の診療の参考になる。

「こども・家族が主体となる在宅ケア支援モデルの開発」

小児における栄養の意義と管理

～こどもと家族の生活を支える技Part4～

こどもが病院へ入院し地域にもどる時、特に、医療行為を持ちながら在宅療養
するということは、こどもにとっても家族にとっても大きな不安を伴います。今年
度の診療報酬改定でも、在宅医療が国の政策として大きな課題となっています
。小児領域における在宅医療の現状を学び、ともにスキルアップしましょう。

講師：増本幸二先生

筑波大学医学医療系小児外科教授

座長

筑波大学附属病院小児科 榎園 崇

開催日時：

2014年7月31日(木)17:30～19:00

開催場所：

特別第3会議室(外来A棟3階)

参加費：無料(事前参加申し込み不要)



ぜひ、みなさまご参加ください！

問い合わせ先：代表者 田村恵美(PHS:90042)
事務局 酒井(PHS:90325)

「こども・家族が主体となる在宅ケア支援モデルの開発」

Part4

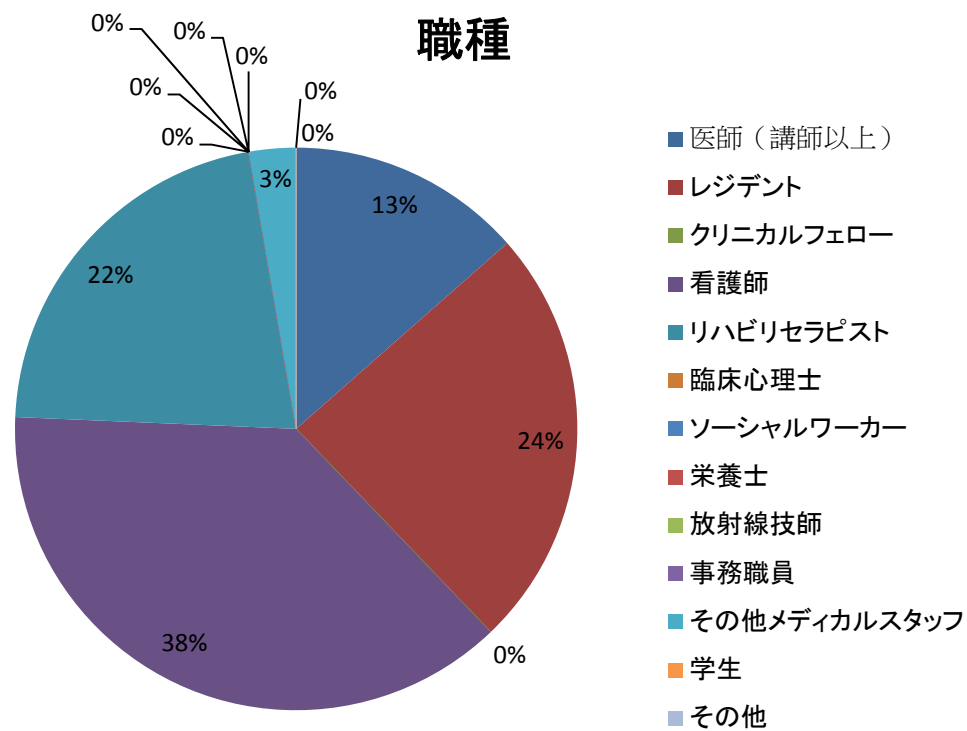
小児における栄養の意義と管理

開催日時：2014年7月31日（木）17:30～19:00

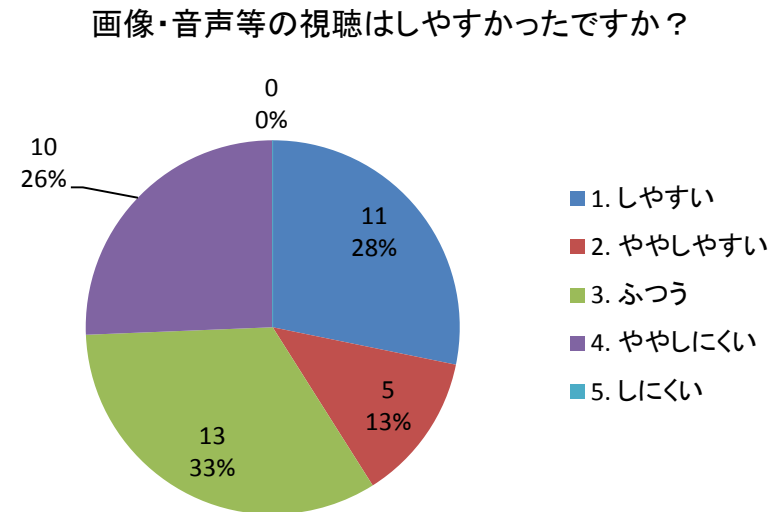
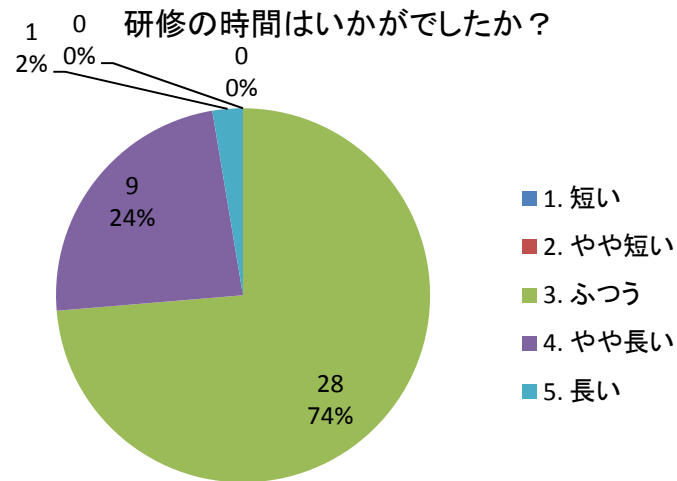
開催場所：特別第3会議室（外来A棟3階）

参加者数：56名 アンケート提出者数：39名

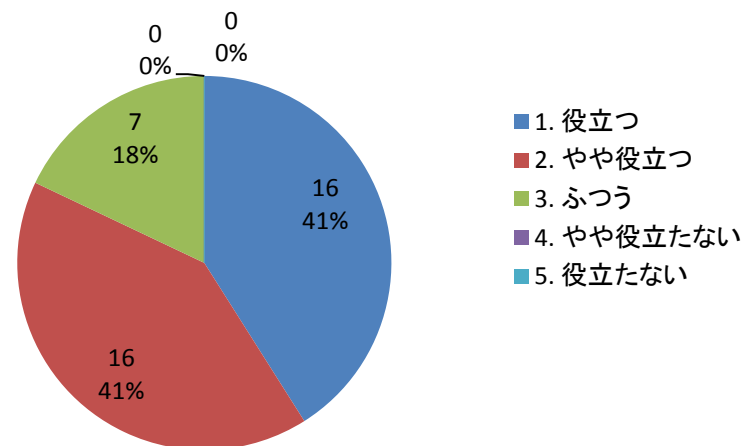
参加者について



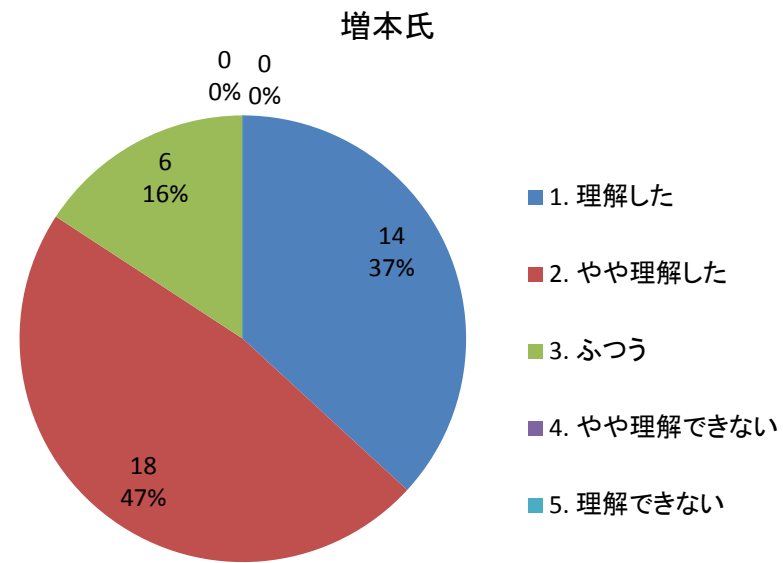
研修について



内容はあなたの今後の業務に役立つものでしたか？



各講義について



意見・感想(1)

- 最近、病棟でエネボの注入が開始されたので、詳しく聞けたので、今後参考にしたいと思いました。
- 内容が難しかった。
- 栄養摂取についての理解を深める事ができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- とても役立ちました。

意見・感想(2)

- いつも指示を何も疑問を持たずにやっていました。もっと勉強を重ねていきたいと思えます。
- エンシュアなど病棟で使用しているものについて聞くことができ、勉強になりました。
- 貴重な内容で、とても勉強になりました。今後の臨床に活かしていきたいと思えます。
- 栄養剤の使用における考え方がとても参考になりました。参考にします。
- 最新の栄養剤の注意点、参考になりました。

意見・感想(3)

- 私はPTですがとても意味のある講義でした。骨、筋、運動だけでなく身体内部の仕組みにもっと目を向けなければと思いました。また、重症患者の消化・排泄にPTが何か役立てないかと考えさせられました。
- 院内で臥床した状態で測定するIN Bodyがあるので代内と連携して栄養評価に使用してけると良いと思いました。

筑波大学附属病院における、小児領域での 在宅医療・地域連携・移行支援の課題

- 在宅移行システム（実際に在宅移行するまでの流れや退院後のフォローシステム）が整備されると良いと思います。
- 退院すると、在宅の状況が見えないので、外来での関わりに工夫が必要となってくるのかもしれないです。訪問など。

今後、研修会等で希望するテーマ

- 地方で小児の支援を行っています。専門機関でなくとも役に立つ講義をききたいです。
- 介助者の腕力不足を補うための小技集とか。
- 在宅において、排泄が重要であると考えていますので、消化器・排泄に関して話を聞きたいです。
- 今後は是非ミキサー食導入について考えてみたいです。ミキサーを入れるためのJMSのPEGなど。

「こども・家族が主体となる在宅ケア支援モデルの開発」
在宅でケアするこどもの家族の心理とこころのケア
～こどもと家族の生活を支える技Part5～

講義1 レクチャー

「在宅でケアするこどもの家族の心理とこころのケア」
講師：筑波大学附属病院臨床心理部 日高響子先生

講義2 地域カンファレンス

「胃瘻造設までの意思決定支援の関わり」
事例提供：筑波大学附属病院

開催日時：

2014年9月5日(金)17:30～19:00

開催場所：特別第3会議室(筑波大学附属病院外来棟3階)

参加費：無料

参加登録：講義1のみの参加は事前参加申し込み不要
講義2に参加予定の場合は事前登録が必要
(講義2は定員30名まで)

* 付属のFAX用紙またはメールにてお申し込みください。

ぜひ、みなさまご参加ください！



問い合わせ先：代表者 田村恵美(PHS:90042)
事務局 酒井(029-853-3785)

地域カンファレンス申し込み書

「こども・家族が主体となる在宅ケア支援モデルの開発」
～こどもと家族の生活を支える技Part5～地域カンファレンス
2014年9月5日(金)開催

FAX:029-853-8819

担当:筑波大学附属病院成育支援室 酒井

➤ 所属:

➤ 氏名:

➤ 連絡先:

(電話でもE-Mailでも可)

定員になり次第、締め切らせていただきます。定員オーバーの場合のみご連絡させていただきますのでご了承ください。

「こども・家族が主体となる在宅ケア支援モデルの開発」

Part5

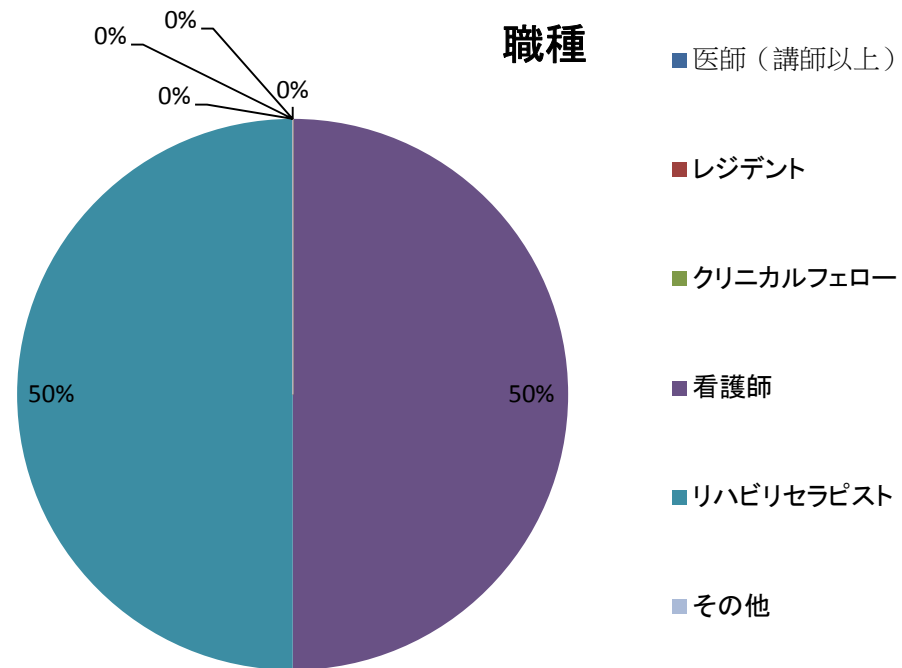
在宅でケアするこどもの家族の 心理と心のケア

開催日時：2014年9月5日（金）17:30～19:00

開催場所：特別第3会議室（外来A棟3階）

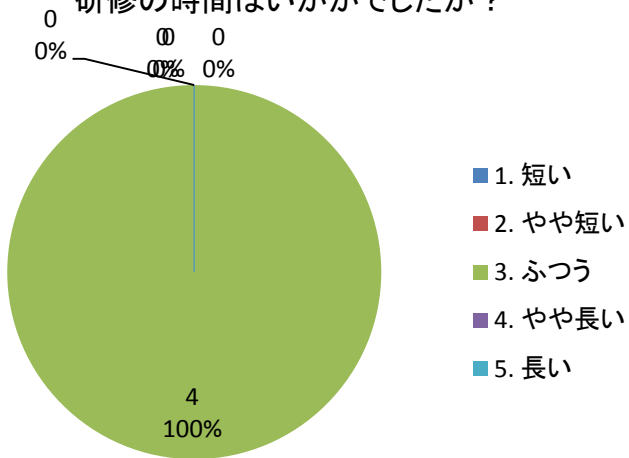
参加者数：11名 アンケート提出者数：4名

参加者について

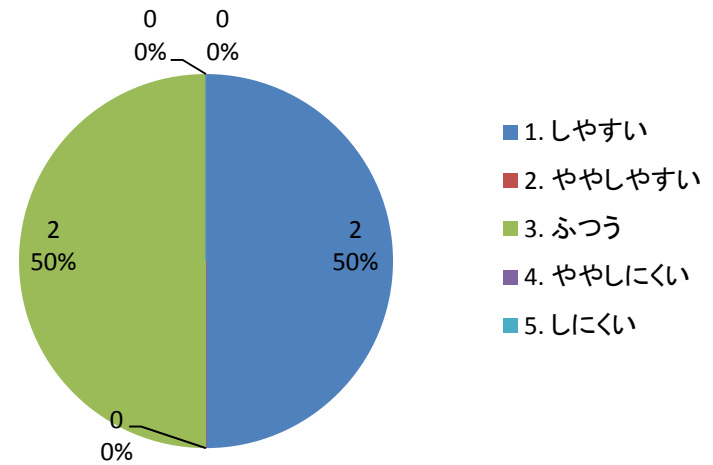


研修について

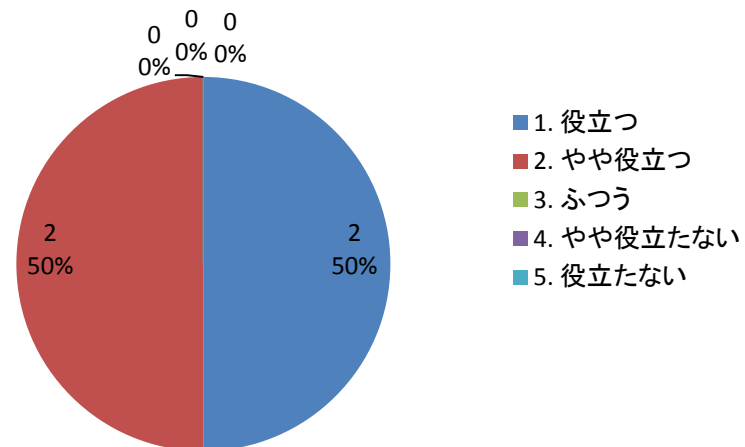
研修の時間はいかがでしたか？



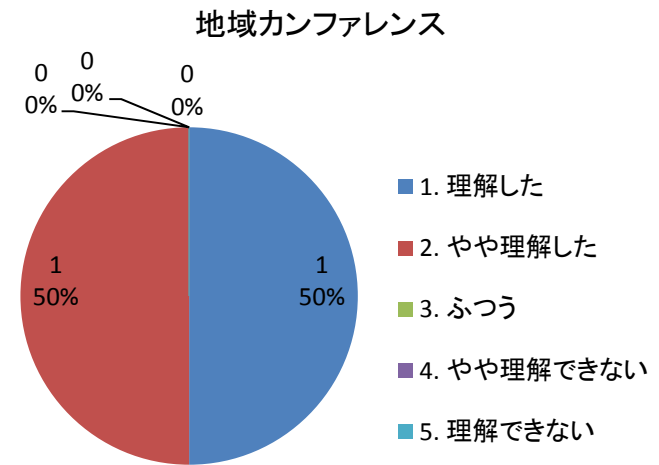
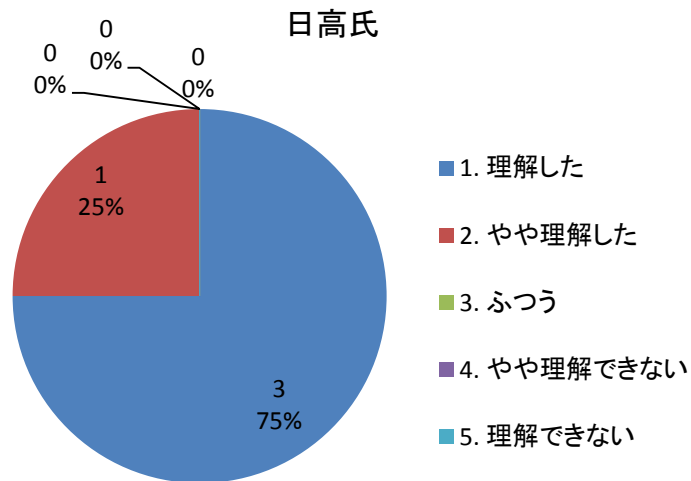
画像・音声等の視聴はしやすかったですか？



内容はあなたの今後の業務に役立つものでしたか？



各講義について



意見・感想

- 身体、心理、社会的側面での包括的アセスメントについて具体的に知ることができました。ありがとうございました。
- 臨床心理士の方の視点からのこころのケアをきけて勉強になりました。

筑波大学附属病院における、小児領域での 在宅医療・地域連携・移行支援の課題

- チーム医療。

今後、研修会等で希望するテーマ

- 記載なし

**「こども・家族が主体となる在宅ケア支援モデルの開発」
在宅におけるこどもの口腔ケアと摂食
～こどもと家族の生活を支える技Part6～**

講義1:

「在宅におけるこどもの口腔ケアと摂食」

講師 高木伸子先生 (たかぎ歯科)

講義2:

「摂食嚥下と食事を楽しむということ」

講師 戸塚久美子

(筑波大学附属病院栄養管理室)

座長:榎園 崇

(筑波大学附属病院小児科)

開催日時:

2014年9月26日(金)17:30～19:00

開催場所:筑波大学附属病院けやきプラザ

(筑波大学附属病院1階)

参加費:無料

参加登録:不要

ぜひ、みなさまご参加ください!



**問い合わせ先:代表者 田村恵美(PHS:90042)
事務局 酒井(PHS:90325)**

「こども・家族が主体となる在宅ケア支援モデルの開発」

Part6

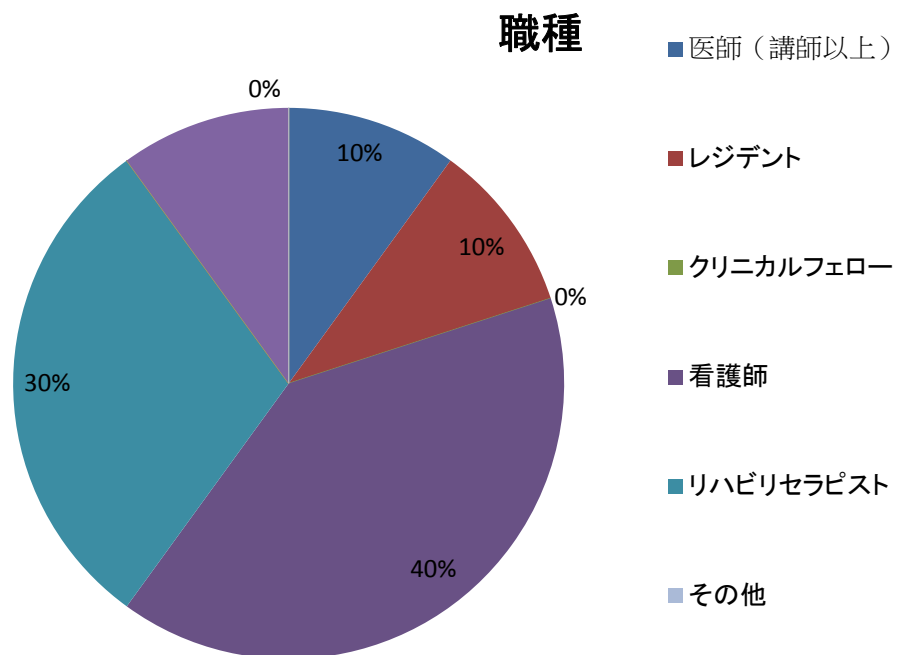
在宅における こどもの口腔ケアと摂食

開催日時：2014年9月26日（金）17:30～19:00

開催場所：けやきプラザ（けやき棟1階）

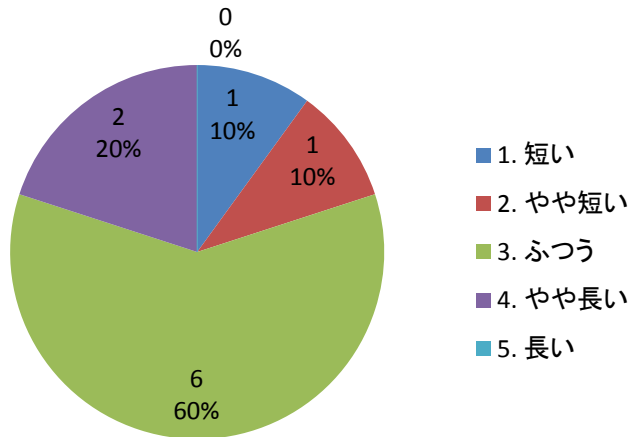
参加者数：29名 アンケート提出者数：10名

参加者について

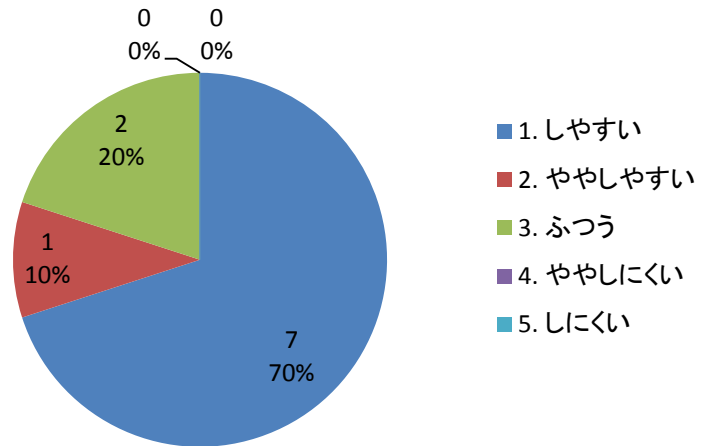


研修について

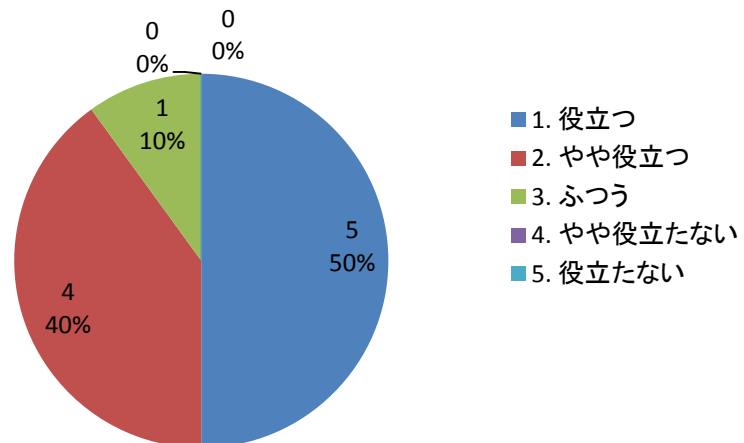
研修の時間はいかがでしたか？



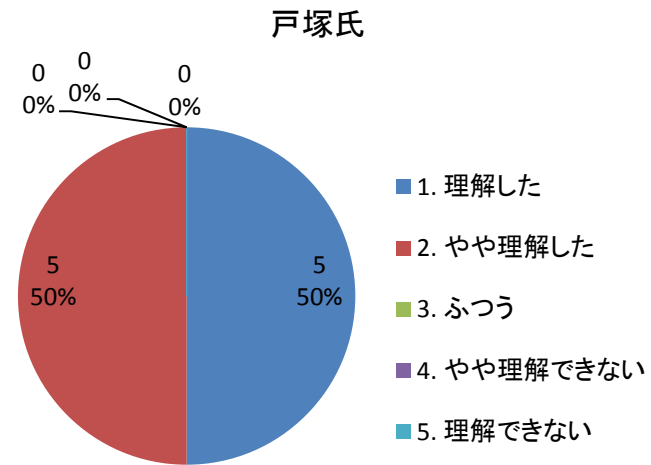
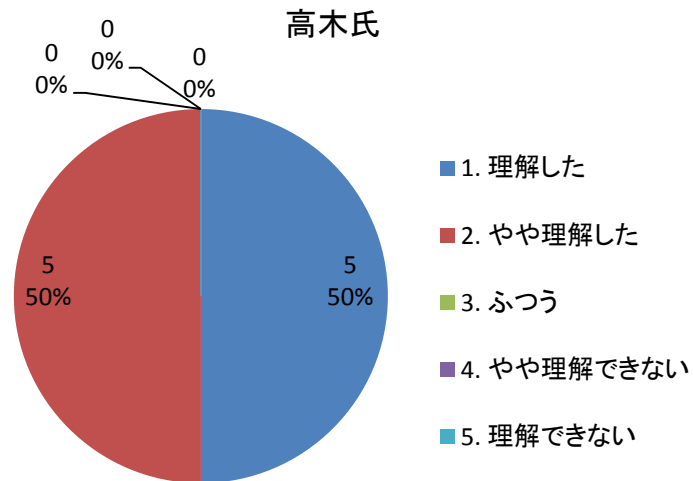
画像・音声等の視聴はしやすかったですか？



内容はあなたの今後の業務に役立つものでしたか？



各講義について



意見・感想

- 分かり易い、内容、発表でした。
- 高木先生の話をもっとうかがいたかったです。
- 調理方法や具体例などみやすい資料を用いての講義でとても分かりやすかったです。ご家族も聞きたい内容だったと思いますし、アドバイスする際にもとても役立つ内容でした。口腔ケアについてはその大切さを健常児以上に口腔管理する難しさを改めて感じました。実際にどのようなアドバイスやケア、関わりをすればよいかもきいてみたかったです。ありがとうございました。

筑波大学附属病院における、小児領域での 在宅医療・地域連携・移行支援の課題

- 学校、国等との連携が更に必要と思います。
全体像の把握、hope、needsのカイリを埋めていければ。。

今後、研修会等で希望するテーマ

- 記載なし

「こども・家族が主体となる在宅ケア支援モデルの開発」

心身障害児の痛みと対処

～こどもと家族の生活を支える技Part7～

講義:

「心身障害児の痛みと対処」

講師 市原真穂先生

千葉科学大学看護学部講師・

小児看護専門看護師

座長:田村恵美

(筑波大学附属病院看護部)

開催日時:

2014年11月14日(金)17:30～19:00

開催場所:筑波大学附属病院けやきプラザ

(筑波大学附属病院1階)

参加費:無料(駐車券のある方は会場にお持ちください)

参加登録:不要

ぜひ、みなさまご参加ください!



問い合わせ先:代表者 田村恵美(PHS:90042)
事務局 酒井(PHS:90325)

「こども・家族が主体となる在宅ケア支援モデルの開発」

Part7

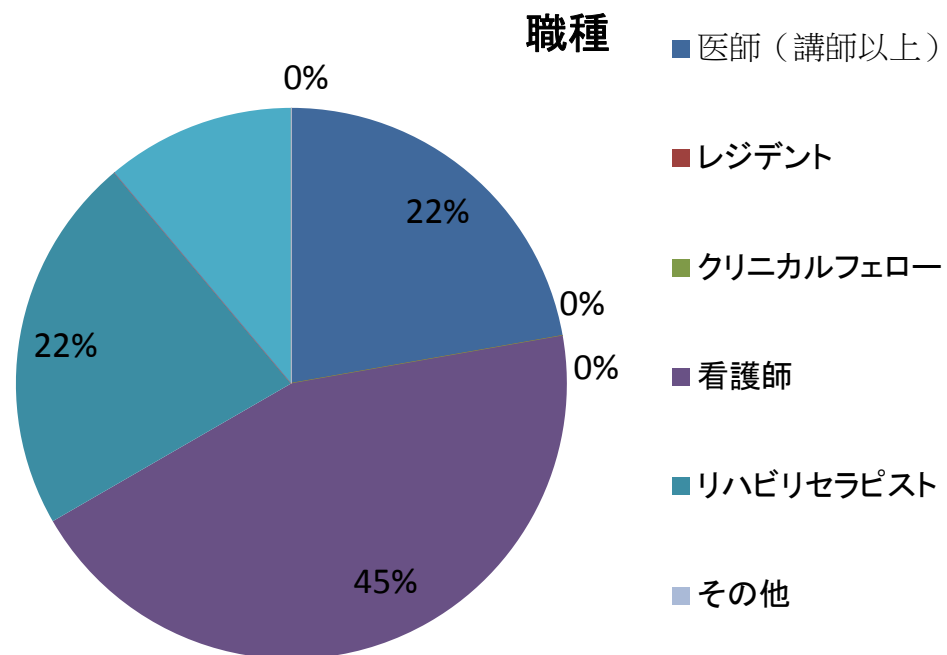
心身障害時の痛みと対処

開催日時：2014年11月14日（金）17:30～19:00

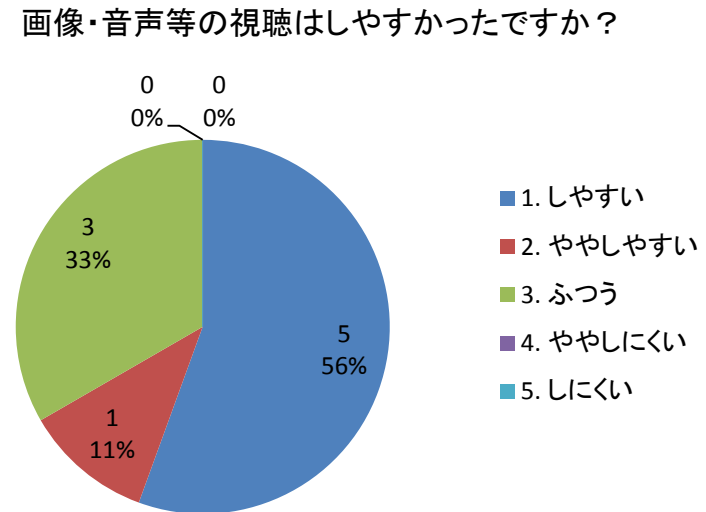
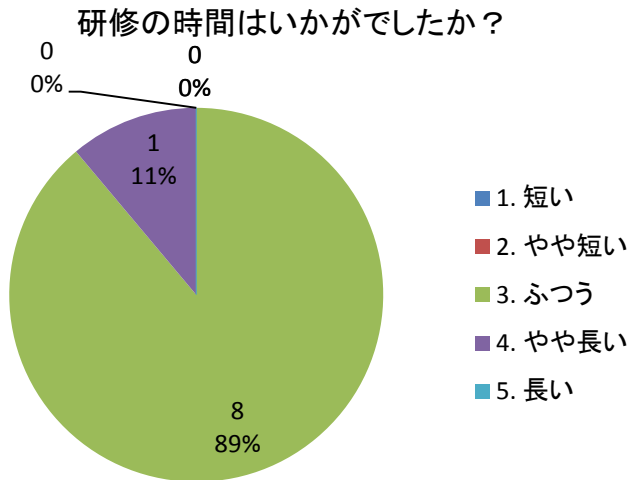
開催場所：けやきプラザ（けやき棟1階）

参加者数：13名 アンケート提出者数：9名

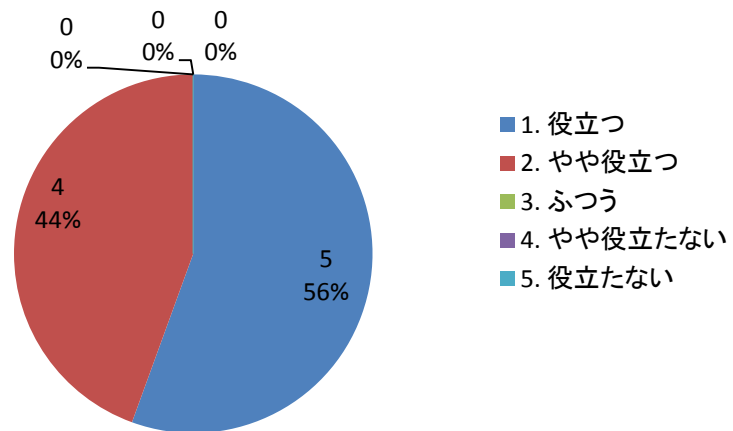
参加者について



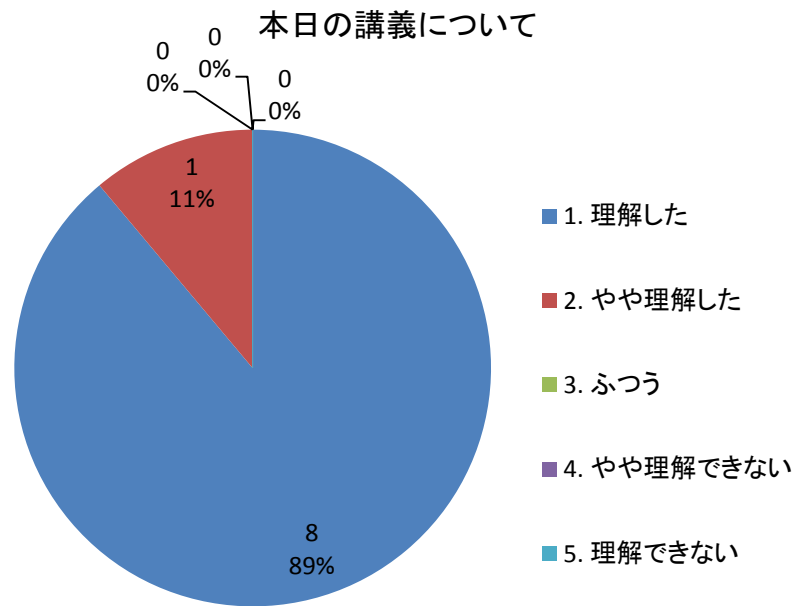
研修について



内容はあなたの今後の業務に役立つものでしたか？



講義について



意見・感想

- とても興味深い内容でした。勉強になりました。ありがとうございました。

筑波大学附属病院における、小児領域での 在宅医療・地域連携・移行支援の課題

- 医師・看護師など(ベッドサイドで働く人)以外の職種の方(SWなど)に会ったことがない。
- 各職種との密な連携。

今後、研修会等で希望するテーマ

- 小児の痛みの評価について。治療に伴う苦痛の緩和をどのように行ったらよいのか（open後、化学療法副作用等）。